

第1学年国語科学習指導案

児童 1年2組 男16名 女14名 計30名  
指導者 種市麻紀

読み取った内容や自分の考えを確かなものにするために対話を生かす指導の在り方

1 単元名 ちがいを かんがえて よもう (学習材名「どうぶつの 赤ちゃん」光村1年下)

2 単元について

(1) 児童の実態

児童は、これまでに「いろいろなくちばし」「しどう車くらべ」において、説明されている事柄についての主語と述語を確かめながら読み取るとともに、説明文の基本である問題提起と答えが説明されている構造の文型を学習した。これらの学習を通して、文の主語と述語に気をつけて読んだり、さし絵を手がかりにして描かれていることの大体をつかんだりする力がついてきている。また、文末表現に着目し、問題提示の文、それに対する答えの文を見つけることができるようになってきている。その上にたって、語や文に着目しながら、書かれている内容を読み取っていく力をいっそう高めていく必要がある。

「読むこと」の学習において、「対話」を生かして学習する経験を、「くじらぐも」や「ずうっと、ずっと、大すきだよ」の物語教材でも、登場人物の気持ちを想像したり、想像したことを聞き合ったりする場面で行った。学習経験の少ない児童にとって、想像したことを聞き合うことは、難しい場面も見られたが、対話で自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりすることによって、自分の考えをしっかりとつとめることができる児童が多くなってきている。

(2) 主たる指導事項と学習材

本単元の主たる指導事項は、「時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」である。この力を培うために「語や文としてのまとまりを考えながら音読すること。」「何についてどんなことが書いてあるのかの大体を読むこと。」「文中における主語と述語との照応に注意すること。」の力を育てていく必要がある。本単元では、「上記の事柄に留意しながら書かれている内容について正しく読み取っていくこと。」が指導の中心である。

このような力を育てるために、学習材として「どうぶつの赤ちゃん」を用いる。本教材は、1年生の児童にとって、興味をかき立てられる動物の世界を取り上げた説明文である。問題提起があり、それに対する答えが説明されている構造である。これまでに学習した説明文の文型と共通していることから、児童は、学習するに従って説明文の組み立て方に気づくことができると考える。また、生まれたときの様子を読み取る視点は、「大きさ」「目や耳の様子」「親との違い」であり、大きくなる様子は、「歩く様子」「えさの内容」「えさの取り方」である。それぞれの赤ちゃんについて読み取った内容を比較することにより、それぞれの赤ちゃんの特徴をはっきりと、とらえることができると考える。さらに、自分が読み取ったことを話したり、友達の考えを聞いたりすることによって、自然の仕組みの巧みさ、生命誕生の神秘、成長のたくましさなどを感じ取ることができるであろう。

(3) 指導に当たって

指導に当たっては、次のように進めたい。

単元のみとおす段階では、題名から学習していくことを予想させたり、身近な動物について知っていることを聞き合わせたりしながら、学習への興味をもたせたい。

ふかめる段階では、はじめに、それぞれの赤ちゃんの生まれた時の様子と大きくなる様子を読み取っていく。さし絵と本文との関係を捉えさせたり、さし絵からいろいろ想像させたりしたい。また、子猫やヤギの実物の大きさがわかる工夫をしたり、叙述に合わせて動作化を取り入れたりしながら、それぞれの赤ちゃんの特徴を理解できるようにさせていきたい。次に、それぞれの赤ちゃんの様子の違いについて感想をもたせたり、異なる理由について考えさせたりしながら、自然の仕組みの巧みさ、生命誕生の神秘、成長のたくましさなどを感じ取らせていきたい。

最後に、自分の調べたい動物の赤ちゃんを説明する文章を書く。読み取ったことを生かし、動物の赤ちゃんの「生まれた時の様子」と「大きくなる様子」がわかる説明文が書けるようにしたい。

まとめる段階では、自分が調べた動物の赤ちゃんの特徴を説明したり、友達の説明を聞いたりしながら、それぞれの動物の赤ちゃんの特徴や違いを確かめさせたい。

3 単元の目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

・ 動物の赤ちゃんの特徴と違いに興味をもって読もうとする。

(2) 書くこと

・ 説明の順序を考えて、好きな動物の赤ちゃんの特徴を説明する文を書くことができる。

(3) 読むこと

・ ライオンとしまうまの赤ちゃんについて、生まれた時の様子と大きくなる様子の特徴と違いを考えながら内容の大体を読むことができる。

(4) 言語についての知識・理解・技能

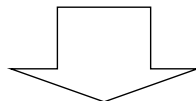
・ 主語と述語の照応に注意して読んだり書いたりすることができる。

#### 4 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 書く能力	ウ 読む能力	エ 言語についての知識・理解・技能
①動物の赤ちゃんの生まれた時の様子と大きくなる様子について興味をもって読もうとしている。 ②動物の本などに興味をもち、進んで読もうとしている。	①動物の赤ちゃんの生まれた時の様子と大きくなる様子について順序を考えながら、語と語との続き方に注意して書いている。	①ライオンとしましまの赤ちゃんの生まれた時の様子と大きくなる様子について、読み取っている。 ②生まれた時の様子や大きくなる様子は、動物によって違うことに気づいている。	①主語と述語の照応に注意して、読んだり書いたりしている。

#### 5 学習指導計画（11時間扱い）

【関連する前の単元】  
「じどう車くらべ」  
○自動車の仕事とつくりの関係を考えながら説明されていることの内容の大体をつかむ。



【関連する対話の指導】  
「わたしは なんでしょう」  
○わからないことや詳しく聞きたいことを尋ねたり、それに答えたりして友達の話の大事なことを正確に聞き取ること。

段階	学習課題（内容）	学習活動と時間	評価規準（方法）
みとおす	○「どうぶつの赤ちゃん」を読み、学習の計画を立てよう。	・範読を聞き、知っている動物の赤ちゃんについて話し合う。 ・動物の赤ちゃん図鑑を作ることを知り、作り方を理解する。（1）  ・挿絵から、ライオンとしましまの赤ちゃんの違いがどのように描かれているかを話し合う。 ・問いの文を確かめ、読み取りの観点を知る。（1）	アー①動物の赤ちゃんの生まれた時の様子と大きくなる様子について興味をもって読もうとしている。 （発言・挙手） ウー①文末表現に着目し、問いの文であることを理解している。 （発言・挙手）
ふかめる	○ライオンの赤ちゃんのことを知ろう。	・ライオンの赤ちゃんの生まれた時の様子を読み取る。（1） ・ライオンの赤ちゃんの大きくなる様子を読み取る。（1）	ウー①それぞれの赤ちゃんの生まれた時の様子と大きくなる様子について理解している。 （発言・ノート）
	○しましまの赤ちゃんのことを知ろう。	・しましまの赤ちゃんの生まれた時の様子を読み取る。（1） ・しましまの赤ちゃんの大きくなる様子を読み取る。（1）	ウー②それぞれの赤ちゃんの様子の違いに気づいている。 （発言）
	○ライオンとしましまの赤ちゃんを比べよう。	・ライオンとしましまの赤ちゃんの生まれた時の様子を比べ、違いを読み取る。（1） ・ライオンとしましまの赤ちゃんの大きくなる様子を比べ、違いをまとめる。 本時 （1）	ウー②生まれたときの様子や大きくなる様子は、動物によって違うことに気づいている。 （発言・学習カード）
	○自分の好きな動物の赤ちゃんを説明する文を書こう。	・動物の本を読み、好きな動物を選ぶ。 ・選んだ動物の赤ちゃんの様子を文にまとめる。（2）	アー②動物の本に興味をもち、進んで読もうとしている。 イー①動物の成長の様子を順序よく書いている。 エー①主語と述語の照応に気をつけて文章を書いている。 （学習カード）
まとめる	○動物の赤ちゃんを説明する文を発表しよう。	・調べた動物の特徴について聞き合う。 ・聞き合った動物の成長の仕方を比べる。（1）	イー①動物の成長の様子を書いたものを聞き合い、違いを見つけて感想を伝えている。 （発言・ノート）



【生かす単元】「たんぼぼのちえ」  
○ 時間的な順序・事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。

## 6 本時の指導

### (1)ねらい

ライオンとしまうまの赤ちゃんの大きくなる様子を表す言葉を比べ、その違いを考えることができる。

### (2)展 開

段階	学習活動 (○主発問)	時間 (分)	◇学習内容	教師の関わり ☆評価(方法)
みとおす	1 前時の学習を想起する。  2 本時の学習課題を確認する。  ライオンとしまうまの赤ちゃんの大きくなるようすをくらべよう。	7	◇比べ方を想起すること。違いがあることを想起すること。	・大きくなる様子を比べ、確かめ合う学習であることを想起させる。
ふかめる	3 歩くときの様子を比べる。(形式段落③と⑥) (1) 書いてある段落を確かめて音読する。 (2) 違いを考える。  4 お乳を飲む期間とえさをとるまでの時間を比べる。(形式段落④と⑦) (1) 書いてある段落を確かめて音読する。 (2) 違いを考える。  5 ライオンとしまうまの赤ちゃんの様子を比べてみて感じたことを聞き合う。(対話) ○ライオンとしまうまの赤ちゃんの違いを確かめてみて、どう感じましたか。友達と考えを聞き合いましょう。 ○友達とどんな聞き合いをしたのか教えて下さい。	20	◇歩くときの様子を比べること 《ライオンの赤ちゃん》 ・ライオンの赤ちゃんは、じぶんでは、あることができません。 ・おかあさんに、口にくわえてはこんでもらうのです。 《しまうまの赤ちゃん》 ・じぶんで立ち上がります。 ・つぎの日には、はしるようになります。 ・にげることができるのです。  ◇お乳を飲む期間とえさをとるまでの時間を比べること。 《ライオンの赤ちゃん》 ・二ヶ月ぐらいは、おちちだけ ・やがてえものをたべはじめます。 ・一年ぐらいたつと自分で捕まえて食べるようになります。 《しまうまの赤ちゃん》 ・お乳だけ飲んでるのは、たった七日ぐらい ・自分で草も食べるようになります。	・前時までの学習と照らし合わせながら、ライオンとしまうまの大きくなる様子の違いに気づかせる。 ・時間の経過を表す言葉に注目させ、その違いに気づかせる。 ・「獲物を捕る」「えさを食べる」「逃げる」などの違いにも気づかせ、ライオンとしまうまの関係を捉えさせる。  ☆挿絵や文章からライオンとしまうまの赤ちゃんの様子の違いを理解している。(挙手,発言,学習シート) 【努力を要する児童への手立て】 挿絵に着目させ、ライオンとしまうまの赤ちゃんの様子の違いを確かめさせる。  ・自然の仕組みの、生命誕生の神秘、成長のたくましさなど生き物のすばらしさを感じさせたい。
まとめる	6 まとめの音読をする。	3	◇読み取ったライオンとしまうまの赤ちゃんの様子の違いから感じたことを聞き合うこと。	・ライオンとしまうまの赤ちゃんの違いを意識づけながらまとまりに気をつけて音読させる。